

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	計画策定と実行プロセス
手法名	里地里山のバイオマス資源の把握手法と実行計画への反映
主体	広島大学中越研
背景(地域の課題)	<p>里地里山の減少による生物多様性の減少が課題となっている。人が手を入れなくなったことにより、里山特有の多様なモザイク的景観が消失していることが大きな原因と考えられている。このため、森の手入れを行うとともに、その結果生み出される資源がどのくらいどのように利用できるのか具体的な数字と方法が求められている。</p>
手法／方策の詳細	<p>(1)調査の実施 森林資源利用の潜在能力を探るため、毎木調査を実施。(図1)</p> <p>(2)実験事業及び普及啓発活動の実施 現地チップ化実験やペレットストーブ燃焼実験を実施。(図2、図3) 関係者の意識向上と利用策の意見交換を行うためのフォーラムを実施(図4)</p> <p>(3)森林資源の潜在能力の推計 森林資源構成(生存・枯死・倒木)を推計するための基礎データの収集を行い、利用可能なバイオマス量を推計する。</p>
手法・技術的視点	<p>・里地里山の資源量を推計し採算性を考慮した具体的な計画策定に反映 全木調査とバイオマスの活用実験を行うことで、保全に伴う活用可能資源量を数値化し推計。採算性をも考慮した具体的な実行計画へ反映させることができる。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p>里地里山の資源量調査と活用に向けたデータ収集</p> <p>活用実験 バイオマス活用試行実践 ・チップ化実験 ・ペレットストーブ燃焼実験</p> <p>毎木調査 ・遷移進行林等すべての樹木の状況を把握。</p> <p>フォーラム開催 ・を行うバイオマス利活用ワークショップの実施。 ・多面的分野から新たな活用を視野に意見交換。</p> <p>指針設定 保全に伴う利用可能な資源量の数値化と活用手法の提示</p> <p>NPOとの連携による保全と調査活動の充実</p> <p>NPO団体による活動フィールドの確保と保全活動</p> <p>大学によるフィールドを利用した調査研究活動</p> <p>活動の促進と科学的見地からのビジョン策定の一体的実現</p>
<p>図・写真資料</p>	<p>図1 毎木調査(遷移進行林分)</p> <p>図2</p> <p>現地チップ化体験</p> <p>図3</p> <p>ペレットストーブ燃焼体験</p> <p>図4</p> <p>里山バイオマスの利活用ワークショップ</p>
<p>参考資料</p>	<p>里なび研修会in石川パワーポイント資料(広島大学 中越信和氏)</p>